



大正十二年五月二十日

川崎

美濃の雨を憶ふ

妓は照弥

席下来る夜

の臍

相先生の愛妓子題す

工貝太郎

酒醒遊士在粧亭

天也

松崎天民

軍馬の世か... 作者

一筆

天民

四十未だ家を成さぬ安んずる



大正十三年五月二十日

川崎

美濃の西を籠る

奴は照弥

席下来る夜

の臆たる 工員太郎
相先生の愛奴を題す

酒醒遊士在遊亭 春如

一筆

松崎天民

松崎天民

早未松家を所す 田村公雄

